

リバーサイドタウン

～まちの魅力の創造とネットワーク～

笠松町の新たな発展のためには、町の歴史・文化、自然条件を現代の社会経済的条件の中で再生させることが重要であり、そこに新たに「笠松らしさ」を付加し、住民協働の理念のもとで町全体が「動いている」と実感できるようなまちづくりを進める必要があることから、新たに「**リバーサイドタウンかさまつ計画**」を策定しました。

まちづくりを担う町民、事業者、行政が共有する理念や指針を描き、町が重点的に進める施策や事業を盛り込んでいます。町の財政状況が厳しさを増していることなどから、特に町固有の資源の効果的な活用を図るため、3つの基本目標と7つの重点課題を設定して、今後の新しい時代に適切に対応した計画とし、また、推進するためには、さまざまな手法を用いて住民参画を充実し、住民協働の理念の下で実現することを基本としています。

また、町の持つ潜在的な力である「馬」と「木曽川の河川空間の景観」を組み合わせ、癒しの空間を創出した事業展開として、木曽川河川敷に放牧場などを整備することも計画しています。

まちの拠点づくり

重点課題

- (1) まちの駅整備(5ページ参照)
- (2) まちづくり拠点施設整備
- (3) 歴史的建造物、文化的財産の利活用

- ・ 町がこれからのまちづくりを進める上で、特に中心市街地において、その中心的な役割を果たす「まちの拠点」として「まちの駅」を複数箇所設置し、それを核としたまちづくりを進める。
- ・ 町の市街地は古くからの歴史を持つまちとして、由緒ある町並みや集落環境に恵まれていることから、新旧市街地が調和を保ちつつ、良好な環境を創出していけるようなまちづくりを進める。
- ・ 中心市街地の「まちの駅」や鉄道駅を中心に、町の歴史文化資源を最大限に生かし、「まちめぐり」が楽しめるような、安全で快適なネットワークづくりを進める。

水辺の環境を生かしたまちづくり

重点課題

- (1) 川の駅整備
- (2) 木曽川、木曽川河川敷の利活用

- ・ 町は川湊の町として繁栄・発展してきたが、時代の進展とともに川との関係も希薄となり、以前のような賑わいも見られなくなってきたことから、木曽川を町の玄関口、人々が行き交う交流の場として、川を生かしたまちづくりを進める。
- ・ 町の個性を生かした、広大な木曽川河川敷のスポーツレクリエーション利用を促進し、広々とした河川環境と景観を積極的に取り入れたまちづくりを進めるとともに、町外の市町村や町内外の観光スポットなどのネットワーク化を進める。